

(令和2年7月13日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(年金受給者のデータ・その3 (年金受給額))

年金受給者のデータ・その3は、夫の年齢階層別配偶者あり世帯の年金受給額です。年齢階層別にみていきますと、70～74歳の平均受給額は年間279.2万円、月額に換算する23.3万円、75～79歳の平均受給額は287.7万円、月額24.0万円。年齢階層別には80～85歳の平均値が最も高くなっているのが特徴です。

年金受給額の受給額の散らばりは、70～74歳の世代では300～400万円の階層が39.3%と多く、75～79歳、80～84歳で40%超と高くなっていて高度成長・団塊の世代の押し上げ効果が出ているのが特徴です。

表21 夫の年齢階級別・本人及び配偶者の公的年金金額階級別 構成割合 (配偶者あり世帯)

	合計	50万円未満	50～100万円	100～150万円	150～200万円	200～250万円	250～300万円	300～400万円	400～500万円	500万円以上	不詳	平均額
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	万円
合計	100.0	2.8	5.1	7.7	10.9	11.2	21.5	33.8	5.0	1.6	0.4	264.5
64歳以下	100.0	27.1	24.0	21.4	12.5	6.9	4.6	2.2	0.4	0.1	0.8	110.4
65～69歳	100.0	1.1	4.7	6.5	11.2	17.3	29.5	25.2	3.3	0.8	0.3	256.0
70～74歳	100.0	0.4	1.9	5.4	10.5	10.8	26.5	39.3	3.8	1.2	0.2	279.2
75～79歳	100.0	0.4	1.8	6.1	10.3	9.3	21.5	43.6	4.9	1.8	0.4	287.7
80～84歳	100.0	0.5	3.4	6.6	10.9	8.9	15.2	42.3	8.2	3.1	0.8	294.9
85～89歳	100.0	0.9	7.5	9.2	11.7	6.1	11.3	37.8	11.9	3.1	0.5	287.1
90歳以上	100.0	4.0	7.0	11.9	8.9	7.8	10.0	30.9	13.7	5.2	0.7	286.1
(再掲)65歳以上	100.0	0.7	3.4	6.5	10.8	11.5	22.9	36.5	5.4	1.8	0.4	277.9

出所：年金制度基礎調査(高齢年金受給者実態調査) 調査2017年、2019年10月2日公開。

振り返って、昨年の年金+2,000万円問題は「65歳から受給された年金だけで夫婦で生活するには、30年間で2,000万円不足しますよ」とのことですが、実態調査から、多くは年金だけで生活できるとは思っていないし、65歳で定年を迎えた後も全く収入がないわけでもなく、各自条件はマチマチ。問題提起する方も受け取る方も短絡的でした。

ちなみに、本統計にある「夫の年齢階級別 本人及び配偶者の収入総額に占める公的年金の収入の割合の平均 (配偶者あり世帯) は、70～74歳で74.0%、75～79歳で81.8%、80～84歳は86.2%と75歳を境に大きく変わります。

本統計は、2019年10月2日に公開されたのですが、この統計数値をもとに丁寧に問題を提起すれば混乱も無かったのにと、データの取扱い・説明の重要さを感じました。